



安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第5号

きらきらEyeランド

JA庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

初期生育確保が必須課題！ 水管理・ワキ対策の徹底で全カスタート！！

今年は播種後の高温により一部で高温障害の発生も見受けられましたが、苗の生育は平年よりも早まり、概ね順調に経過しました。本田作業は比較的好天に恵まれたため、耕起後乾燥が進んだ圃場では乾土効果の発現が期待されます。

仙台管区気象台の1カ月予報(4月30日発表)では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い予報です。田植えは好天日を選んで行い、保温的水管理で活着を促進しましょう。今年もワキの発生が懸念されます。圃場をよく観察してワキ対策に努め、初期生育の早期確保に繋げましょう。

また、圃場見回りの際はクマ被害を未然に防止するためにラジオ等で音を鳴らす、身の周りの方々へ行き先を伝えるなどして事前の対策を施しましょう。

技、其の一 田植え後は、こまめな水管理で発根・活着を促進させましょう！

- ★田植え後：保温的水管理(水深4～5cm程度)とし、発根・活着を促しましょう。
- ★活着後：浅水管理(水深2～3cm)で水温を高め、分けつを促しましょう。
給水は夕方または早朝に行い、昼夜の温度較差を設けましょう。
- ★強風や低温が続く場合
一時的に中水管理(水深5～6cm)とし、稲体の保護に努めましょう。

技、其の二 土壌の還元(ワキ)対策は早めに必ず行ないましょう！

今年は田植え後も晴れの日が多い予報のため、今後気温の上昇とともに土壌の還元(ワキ)が急激に発生することが予想されます。

土壌が還元状態になると有害ガスの発生により根の活力低下・伸長抑制、窒素吸収の遅延など初期生育の停滞につながります。圃場に入ると気泡が出て異臭がする場合や、活着後の葉色が淡いときは以下の対策を講じましょう。

- ★主な対策
- ・風の穏やかな温暖な日を選び、水交換を行いましょ。
- ・ワキの程度に応じ、夜間落水や2～3日程度軽く田干し(ガス抜き)を行いましょ。
(ワキが例年発生する圃場は6月上旬を目処に必ず行いましょ)
- ・例年ワキが特にひどい圃場では、田植え直後の「V S こがね液 (5ℓ / 10a)」の施用、または除草剤散布前の「田んぼの鉄人 (15kg / 10a)」の施用が効果的です。
なお、田んぼの鉄人はアオミドロ、表層剥離にも効果的です。

技、其の三 除草剤の散布は活着後遅れずに！

- ★土壌の還元(ワキ)防止のため、散布前に必ず水交換をしましょ。
- ★代かき後、気温が高く経過した場合は雑草の生育が早まります。
散布適期を逃さないよう代かきからの日数やノビエの発生状況を確認しながら遅れずに散布しましょ。
- ★散布後7日間は止め水とし、除草効果を高めましょ。
- ★散布する前は、畦畔の補修、畦畔ポリ等で漏水対策を実施しましょ。
- ★アオミドロ、表層剥離の発生が見られる場合はモゲトン粒剤の施用が効果的です。
※特別栽培米は使用不可
- ★フロアブル剤・ジャンボ剤の強風下での使用は、薬剤の拡散に支障をきたすことがあるので避けましょ。

(灌水深は5cm
処理後7日間は水を動かさない)

7日間
5cm



令和8年度 JA庄内みどりの主な推奨除草剤一覧(移植水稻)

区分	除草剤名	10a使用量	使用時期	
体系処理剤	エリジャン乳剤	300ml	移植直後～ノビエ1.0葉期 ※先陣1キロ粒剤には藻類・表層剥離の予防効果があります。	
	ソルネット1キロ粒剤	1kg		
	先陣1キロ粒剤	1kg		
	中期剤	レブラスギア1キロ粒剤	1kg	移植後14日～ノビエ4.0葉期
レブラスギアジャンボ		30g×10個		
テッケン1キロ粒剤		1kg	移植後15日～ノビエ4.0葉期	
ウィードコア1キロ粒剤			移植後7日～ノビエ4.0葉期	
初中期一発剤	1キロ粒剤	1kg	ディオーレ1キロ粒剤	移植直後～ノビエ3.0葉期
	ジャスタ1キロ粒剤		移植直後～ノビエ3.5葉期	
	アットウZ1キロ粒剤		移植直後～ノビエ4.0葉期	
	フロアブル	500ml	ディオーレフロアブル	移植後1日～ノビエ3.0葉期
		ジャスタフロアブル	移植直後～ノビエ3.5葉期	
		アットウZフロアブル	移植後3日～ノビエ4.0葉期	
ジャンボ	40g×10個	ディオーレジャンボ	移植後1日～ノビエ3.0葉期	
		ジャスタジャンボ	移植後1日～ノビエ3.0葉期	
		アットウZジャンボ	移植後3日～ノビエ4.0葉期	
顆粒	ディオーレ顆粒	80g	移植後3日～ノビエ3.0葉期	

- ※ 特別栽培および直播栽培で使用できる除草剤は、限定されますのでご注意下さい！！
- ※ 農薬は、容器等のラベルをよく読んで使用し、農薬使用等の正確な記録の為、農作業記録野帳へ記帳してください。
- ※ 春は作業が集中します。農作業の安全に留意してください。
- ★補植苗は田んぼに放置しない！⇒いもち病の伝染源になります。
【補植苗一斉撤去デー 5月23日(土)・24日(日)】

〇〇〇 目指そう！大豆収量240kg/10a 〇〇〇

排水対策の徹底と適期播種【5月20日～6月10日】の厳守！

排水対策・土づくり等の基本技術を徹底して適期内に播種して出芽苗立ちを十分に確保しましょう。下記栽培暦に基づいて基準を守り良質な大豆生産に努めましょう。

大豆栽培暦

(品種) リュウホウ・エンレイ・里のほほえみ

時期	作業項目	ポイント	10a 当たり資材等
4月中旬	排水対策	○圃場の周囲に明渠を実施する(深さ40cm)。 ○サブソイラーにより暗渠の排水効果を高める。	最重要対策！
5月中旬 ～ 5月下旬	土づくり	○ <u>土壌pHは、大豆に好適な6.0～6.5</u> に矯正する。	堆肥 1～2t 発酵鶏糞ペレット 75kg 粒状苦土石灰 120kg
	施肥	○2回耕起とし、耕深15cm碎土率70%以上を確保する。	大豆一発号 40～50kg 豆プロ一発 508 24～30kg
耕起	だいちのおごん 222 30～50kg だいちのおごん 222-R 30～50kg 大豆化成 684 40kg		
5月中旬	種子準備	○大豆栽培初年目の圃場では根粒菌の接種が必須です。 注:根粒菌は直射日光に当てないこと。	種子 3.5～4.5kg ※大粒の場合は播種量を増やしましょう。 キヒゲン 35～45g (種子量の1%) 種子粉衣又はキヒゲンR-2フロアブル 70～90ml (種子1kgに20ml) 塗抹処理
5月下旬 ～ 6月上旬	播種	○5月20日～6月10日頃	条間 75cm 株間 18～22cm 2粒点播 (目標栽植密度: 12,000～15,000本/10a)
5月下旬 ～ ※播種直後全面土壌散布	除草	○乳剤は、10a当り100ℓの水で希釈して散布する。 ※散布液量が不足すると除草効果が劣るので注意する。	クアターン細粒剤 F 4～5kg クアターン乳剤 600～800ml トリアノサド粒剤 2.5 4～6kg トリアノサド乳剤 250～300ml エコトップP乳剤 500～600ml ラクサー乳剤 400～600ml

◎【ネキリムシ類の防除】

- ・クルーザーFS30 種子塗沫処理 (乾燥種子1kg当たり原液6ml)
【塗沫処理順序 ①クルーザーFS30 ②キヒゲン ③根粒菌】
- ・クルーザーMAXX 種子塗沫処理 (乾燥種子1kg当たり原液8ml)
【塗沫処理順序 ①クルーザーMAXX ②根粒菌】
- ・カルホス微粒剤F 播種時に散布(6kg/10a)し、土壌混和する。

農薬の保管と空容器の処理について

◆農薬は、保管庫に必ず鍵を掛けて保管しましょう。又、使用済みの農薬の空容器等は、各資材店舗で実施している農業用廃プラ回収日に処分しましょう。

《園芸情報》

アスパラガスの栽培管理について

1. 本圃準備・施肥

アスパラガスは定植すると、同じ場所で何年も栽培を続けることになるため、定植前の深耕、有機物施用による土壌改良を行うことが重要です。完熟堆肥を10a当たり10～30t 全面施用し、深耕ロータリー等を利用して30cm以上深耕するようにします。土壌pHは5.8～6.8を目標に土壌改良資材(石灰資材等)を施用します。

10a当たりの施肥量は、成分でN:15kg、P:10～18kg、K:10kg程度を目安に施用します。

2. 定植準備

畝幅は150～180cm、ベット幅は60cmを目安とし、転作田等の排水しにくい圃場では高さ15～20cmの高畝にします。土壌水分の確保や雑草対策にマルチを被覆します。マルチ内には、株元から15～20cm程度離れた位置に灌水チューブを設置します。

3. 定植

株間は40cmとし、深さ7～10cm程度に植え付け、マルチの開口部を塞ぐように覆土します。植え付けが深すぎると葉が伸長しなかったり、葉が伸びても茎が伸長しなかったりしますので注意しましょう。

4. 定植1年目の管理(茎葉管理)

定植1年目は収穫を行わず、茎葉の管理に努めます。支柱を立て、フラワーネット(4目)を張ります。ネットの位置は地際部から60cmの高さにします。倒れた茎は地際部から取り除きますが、可能な限り茎は倒さないように管理します。

灌水は、生育状況、土壌条件、時期にもよりますが、2～3日に1回を目安に行い、乾湿差がでないように管理します。

5. 定植2年目以降の管理(収穫・株養成)

定植2年目から収穫が始まりますが、若茎が30cm程度に伸び、先端が開く前に地際から刈り取りましょう。若い株は株養成に重点を置き、春季の収穫期間を短くします。春季の収穫期間については、収穫芽の太さ(例えば、2L・L階級が減少し、S階級が増えてきたら終了する)、収穫芽の状況(穂先の開き、曲がりが見えたら終了する)等を観察して決定します。

春季の収穫後は夏秋季の収穫に向けて、親茎を立茎します。親茎として立茎する茎は、直径10～13mm程度のものを選び、株当たり4～5本を目安に立てます。目標とする親茎数を確保することができたら、除草や下枝かき、扁平や曲がり等の奇形となった若茎の除去をこまめに行います。その後は、親茎を順調に生育・維持させながら、6～9月にかけて萌芽してくる若茎を収穫していきます。

6. 防除

病害は斑点病・褐斑病・茎枯病・灰色かび病が発生します。基本的に銅剤等による予防防除に努めましょう。害虫はアザミウマ類・カメムシ類・ヨトウムシ類・オオタバコガが発生します。農薬や病害虫等に関する疑問・質問は各園芸センターへお問い合わせください。

★次号の発行は6月10日です！

やまがた米づくりナビ

使ってみましょう！！



HPこちら→

「はえぬき」「雪若丸」でも活用できる機能が充実！

※サーバーが移行します。ブックマークの再登録をお願いします。

酒田普及課 LINE

タイムリーに情報発信！



登録をお願いします！